# 平成20年産農畜産物に係る
# 十勝管内農協取扱高について〔概算〕

平成２０年１２月２６日
十勝地区農業協同組合長会
十勝農業協同組合連合会
十 勝 支 庁 産 業 振 興 部

## １　考え方

本集計は、平成20年産農畜産物に係る十勝管内24農業協同組合（以下、農協という ）の年間総取扱高について各々試算したものを集計したものであり、商系取扱高は含んでいないことから、管内農業産出額とは異なる。

取扱高には、先進的小麦等支援事業助成金、水田・畑作経営所得安定対策交付金を含む。

なお、本集計には収入減少影響緩和対策及びてん菜の委託加工・市場隔離玉収入は含まない。

## ２　平成20年の概要

**農協取扱高は、昨年を上回る　２，４６３億円**

※　20年産農畜産物に係る農協取扱高については、耕種部門で６億円増の1,203億円、畜産部門で40億円増の1,260億円。全体では前年比102％、46億円増の2,463億円。

### （１）耕種部門

耕種部門では、３月の気温が高めに経過したため融雪は早く、４月も気温が高く経過したため耕起作業や植付・は種作業等は順調に推移した。

○　小麦については、一部地域で子実の充実不足や製品歩留まりの低下がみられたものの、単収はほぼ平年並を確保。

○　豆類については、総じて豊作傾向で、大豆の単収は平年並～やや多いことが予想され、品質は平年並。また、小豆の単収は、平年を上回ることが見込まれる。

○　馬鈴しょについては、単収、でん粉価とも平年並であったものの、小雨の影響などにより小玉傾向。

○　てん菜については、昨年に比べ、糖分は上回るものの、作付面積と単収は下回る見込み。

○　野菜については、作柄としては総じてほぼ平年並に推移したものの、だいこん、キャベツで市場隔離が実施されるなど、価格動向としては不安定であった。

**◇耕種部門取扱高　１，２０３億円（対前年比　１０１％　［構成比４９％］）**

### （２）畜産部門

○　酪農は､個体販売の取引価格が低迷したものの、増産型の計画生産による生乳生産量の増加や乳価の引き上げにより、昨年を上回る見込み。

○　肉用牛は、景気低迷の影響などによる牛肉需要の減退に伴い、枝肉及び個体販売価格が低下したことなどにより、昨年を下回る見込み。

**◇畜産部門取扱高　１，２６０億円（対前年比　１０３％　［構成比５１％］）**

## ３　取扱高集計結果

（単位：億円、％）

| 区分 | | 平成20年（概算値） | | 平成19年（実績値） | | 前年対比 | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 取扱高 | 構成比 | 取扱高 | 構成比 | 増減額 | 前年比 |
| 耕種 | 麦類 | １７７ | 7.2 | １７７ | 7.3 | ０ | １００ |
| | 雑穀・豆類 | １４３ | 5.8 | １２１ | 5.0 | ＋２２ | １１８ |
| | 馬鈴しょ | ２１９ | 8.9 | ２３２ | 9.6 | △１３ | ９４ |
| | てん菜 | １８６ | 7.6 | １９４ | 8.0 | △８ | ９６ |
| | 野菜 | ２０３ | 8.2 | １９９ | 8.2 | ＋４ | １０２ |
| | その他 | １１ | 0.4 | １１ | 0.5 | ０ | １００ |
| | 固定払 | ２６４ | 10.7 | ２６３ | 10.9 | ＋１ | １００ |
| | 小計 | １，２０３ | 48.8 | １，１９７ | 49.5 | ＋６ | １０１ |
| 畜産 | 酪農 | ８４９ | 34.5 | ７８２ | 32.4 | ＋６７ | １０９ |
| | 生乳 | ７５５ | 30.7 | ６７４ | 27.9 | ＋８１ | １１２ |
| | 肉用牛 | ３６３ | 14.7 | ３８９ | 16.1 | △２６ | ９３ |
| | 豚・鶏 | ２５ | 1.0 | ２４ | 1.0 | ＋１ | １０４ |
| | その他 | ２３ | 1.0 | ２５ | 1.0 | △２ | ９２ |
| | 小計 | １，２６０ | 51.2 | １，２２０ | 50.5 | ＋４０ | １０３ |
| 総合計 | | ２，４６３ | 100.0 | ２，４１７ | 100.0 | ＋４６ | １０２ |